

お店・イベントなどのお知らせ

	べらしお福祉住吉東店	コブシ・カフェ	手づくりショップ・パン	田辺大根堂
こんなお店	名物は塩ラーメン！ サイドメニューも充実しています	メニューがどんどん進化しています！ 名物はサンドイッチ！	パンと焼き菓子のお店です 名物はふわふわのシフォンケーキ！	なごみ玄関で採れた野菜や乾物などを販売しています！
開店曜日	月～金曜日	月～金曜日	月～金曜日	毎週木曜日
開店時間	11:30～13:30	9:30～14:30	10:00～16:00	10:30～
備考	4月29日(月・祝)営業します。	4月29日(月・祝)はお休みです。	4月29日(月・祝)はお休みです。	4月はお休みありません。
	Family Friendly らふら	みんなのマーケット るびなす	るびなす みんなの食堂	まちかど喫茶 よさみ野 作業所
こんなお店	いろんな作業所で作った製品を集めて販売しています 名物は手作りトートバッグ！	堺市南区高倉台にある、就労支援のスーパーマーケットです！	高倉台にあるみんなの食堂土曜の朝集合！	なごみ地域交流スペースのふれあい喫茶です
開店曜日	火～土曜日	月～金曜日	第1土曜日	毎週木曜日
開店時間	10:00～16:00	10:00～17:00	11:00～14:00頃	10時～15時
備考		4月29日(月 祝)はお休みです。	参加費(子ども)100円 参加費(おとな)300円	
	なごみ食堂	ごはん倶楽部	オレンジカフェ ななしのごんべえ	
こんなお店	なごみ地域交流スペースで、参加者で調理して、みんなで食べます！調理が苦手な方も大歓迎です。		大領であい2階・地域交流スペースにて開催	
開店曜日	第3火曜日	第3木曜日	第2土曜日	
開店時間	16:00～19:00	17:00～20:00	14:00～16:00	
備考	参加費100円	参加費200円	参加費100円	

なごみ感謝祭2024

～地域の皆様に設立20年の感謝の気持ちを込めて～
2024年5月11日(土)10時30分～14時
場所:特別養護老人ホームなごみ1階

10時～ 記念式典
 10時30分～ オープニングセレモニー「お米一座」

※雨天でも行ないます！
 ※なごみは駐車場がありません。

11時～ なごみ食堂の献立や屋台メニューが
 安く、掘り出し物たくさん♪バザー(子どもさん向けのゲームコーナー)



お問い合わせ TEL06-6676-0753
 特別養護老人ホームなごみ 上村・今村・門馬

なごみ感謝祭のバザーに提供して頂ける物品大募集!!!

ご自宅に眠っている使わなくなった物などありましたら、食品以外で、ご提供頂けませんか？
 「こんななんでもええかな？」と思う物は、一度ご相談頂けたら嬉しいです。
 ご相談頂けましたら、引き取りにも伺います！(住吉区界隈限定)
5月4日(日)まで募集させていただきます！
 お問い合わせ:06-6676-0753
 (担当:上村・今村・門馬)

バザー物品の受付は
5月4日(日)まで
 感謝祭は
5月11日(土)10:30～

Vol.247

ライフサポートだより

2024年4月号
 (社福)ライフサポート協会
 〒558-0054
 大阪市住吉区帝塚山東5-10-15
 ☎06-6676-0753
 □info@lifesupport.or.jp

三月 うれしい ひなまつり

思い思いに ひなまつりDay

総セン生活介護 Kirinn班

季節の行事を大切にするKirinn班です。今年も書初め、節分、バレンタインに続き、3月はメンバーさんたちと、ささやかですがひなまつり企画を開催いたしました。創作活動として、紙コップや紙皿を使ったひな人形作りに取り組みました。皆さん思い思いの顔を描いたり、千代紙をちぎって貼って、着物部分のコーディネートをしたりと集中して制作。とっても素敵なひな人形達が誕生しました。



7段のひな壇に囲まれて

特別養護老人ホームなごみ

3月3日、ひな祭り。特養なごみでは、毎年恒例の7段もあるひな壇を飾りました。ひな壇の横で記念写真を撮影したり、思い出話をされたりしながら、楽しまれておられます。当日は、ちらし寿司を提供させていただきました。お年寄りも充実した一日となったようです。まだまだ寒い日は続きますが、お年寄りも大変お元気に過ごしておられます。今後も特養なごみにつきまして、何とぞよろしくお願い申し上げます。



歌に踊りに紙芝居♪

なごみデイサービス

なごみデイサービスでは、ひな壇の前で可愛くポーズをとって記念撮影をしたり、歌ったり踊ったりしてひな祭りを楽しみました。ひな祭りを題材にした紙芝居『みいちゃんの春』を、今回はご利用者さんに読んでもらいました。お母さんとみいちゃんが雛人形を出すシーンを、三歳のみいちゃんになりきって可愛く読んでくださいました。ご利用者さんの持っている優しい人柄が紙芝居にあふれ出ていました。紙芝居はスタッフだけが読むものではなく、ご利用者さんの力を発揮してもらえるレクリエーションだと思います。今回はひな祭り『みいちゃんの春』がうまくマッチし、ご利用者さんも大活躍のひな祭りになりました。



ジャム製造機器を導入

みんなのマーケットるびなす

清水基金様より助成をいただき、みんなのマーケットるびなす にジャム製造機器一式が設置されました。SDGsなジャムを、メンバーさんと一緒に作っていきます!!

清水基金様、機器の助成をいただき、ありがとうございました!



←左より
 充填機、栓瓶機、
 電磁調理器
 →
 コンプレッサー
 蒸気殺菌庫



福祉共育を行いました

2月16日(金)、住吉小学校の6年生約60名が総合福祉センターを訪れ、福祉体験学習を実施しました。以前は3年生の校外学習「まちたんけん」として行っていたのですが、コロナ禍でしばらく休止となり、今回は約4年ぶりの開催でした。

地元住吉区社協のご協力も得て、車イス・アイマスク・高齢者疑似体験の3つを総セン大広間を中心に、エレベーターや階段、テラスなどを使い、段差や点字ブロックがあることを知るとともに、手引きや介助の仕方を学んでもらいました。

高齢者疑似体験では、前かがみに腰が曲がり、体が重たくなった上での動作を体験。装具を外した後の「あー、しんど!」と思わず出た一言は、高齢者の大変さを実感できたのではないのでしょうか。

総センに来て、いろいろな体験をし、てんやわんやのひとつときでしたが「ふくし」のことを考えるきっかけとして、子ども達がこのまちを支え合う仲間になることを願い、これからも福祉共育を続けていきます。



放課後デイを巡る問題

2022年に吹田市の放課後デイで発生した行方不明からの死亡事故。これを受け、NHKで放課後デイが抱える問題についての番組が放送されました。番組の調査では、職員が目を離れた際の行方不明事故が5年間で313件発生していました。苦手な音を聞いた時や気になったことがあると走り出すといったように……。

番組では「じらふ住吉」にも取材がありました。じらふでは子ども10人に職員5名を配置(国基準は最低2名)していますが、一人ひとりに丁寧な対応をしようとする足りないこともあり、じらふでも昨年2件の見失いがありました。国の報酬単価は職員数ではなく子どもの数なの

で、十分な職員を置くと赤字になり、じらふも赤字で他の福祉事業からの補填でなんとか運営している実情です(上田センター長)

また、番組では他の要因として、障がいの特性を知らない、経験がない職員の存在が挙げられました。施設によっては研修が十分ではない状況、それに対して、神戸市では職員が障がい福祉の専門家を伴い施設訪問する「巡回支援」を順次行っているとのこと。外部の目が入ると専門性の確保を目的としているそうです。

このように放課後デイの抱える問題を伝えていただきました。少しでも改善されていくことを期待して、発信を続けていきたいと思っています。

じらふデイ卒業パーティー

すみよし すみのえ かいどう
 じらふ住吉、住之江、街道

じらふデイでは3月3日(日)に、今年度で卒業される高校3年生を対象に卒業パーティーを開催しました。

午前はグループに分かれて昼食の材料を買いに出かけたり、調理のお手伝いもしてくれました♪

午後はレクリエーション。工作、ボウリング、ビンゴなど6つのブースをスタンプラリーで回りました。スタンプを集めて好きな景品と交換して持ち帰ってもらいました。

最後に保護者の方も集まって、じらふでの思い出をスライドショーで振り返り、卒業証書授与式を行いました。皆さんの笑顔がいっぱいのステキな会になりました♪



生活介護部門 実践報告会のプチ報告

12月開催の生活介護部門実践報告会で登壇した、総セン通所の田中貴大さんと大領地域の家であいる一ふ班の中島彰駿さんから実践報告会の感想をいただきました。

●総セン通所 田中貴大さん

「人前で発表するのに慣れておらず、お聴き苦しいところもあったかと思いますが、自分なりに精一杯の発表ができたのではないかと考えています。Kさんに関しては、去年の1月に通所を開始してからケース担当として、ご家族様と密に連携を取り、何とか乗車できるよう、1年以上の間、頑張ってきました。最近の近況としては、Kさんの乗車場所を元の自宅前に変更し送迎を継続しています。今も週5日の内に1、2回乗車される状況が続いていますが、Kさんが気持ちよく乗車できるよう様々工夫をしていますが、Kさんにご報告させていただきます! 何ごとにもまずは「できることからやっていく」精神で今後も頑張っていきます! また他部署でも「こんなことしてみたらいいんじゃないかな?」などありましたら教えてください!」

●大領地域の家であいる一ふ班 中島さんのコメント

「実践報告会を終え感じたことは、1人でする支援より、みんなでする支援を考えることの大切さです。複数人で氷山モデル*を行い、それをもとに支援を考え、関わる全ての人が同じ支援をすることで、ご本人の変化を感じることができ、嬉しく感じられました」

お二人の感想から「チャレンジする大切さ」を学ぶことができたと思います。実践はまだまだ続きます。この間も当該のメンバーの方々の変化も発見でき、次の支援に向けて動くことができております。

改めて、ご協力いただいたメンバーの皆様、ご家族様、ありがとうございました。



* 氷山モデル…自閉症の人の行動は氷山の氷の上に出ている部分のようなものであるから、水面下にある要因——本人の特性や記憶、取り巻く環境などに着目するという考え方。